

令和3年度 第2回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	令和3年12月23日(木)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(委員) 宮本 正路(委員) 清水 健司(委員) 清水 桂子(委員) リモート参加:平賀 健太郎(副会長) 鎌倉 義雄(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 前田 真紀子(事務長) 篠川 一樹(教頭) 太田 直哉(教頭) 藤原 克行(首席) 石見 友一(首席) 辻 美穂(小学部主事) 佐々木 敦子(中学部主事) リモート参加:西井 大介(首席) 佐藤 薫(指導教諭)
傍聴者	無
協議資料	下記議題関係資料
備考	

議題等(次第順)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>(2) 「学校経営計画」の進捗状況について</p> <p>(3) 「学校教育自己診断」について</p> <p>(4) 「授業アンケート」について</p> <p>(5) 教科用図書 選定報告</p> <p>(6) 意見交換</p> <p>(7) 教頭挨拶</p>
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
<p>・自立活動に関する取り組みの充実</p> <p>①スパイダーの台数の増加により活動の幅が広がった。呼吸器を使用している生徒も立位姿勢をとれたり、普段ひとりではできない活動に取り組めたりする。</p> <p>②ベビーロコにより自分で動ける楽しさ、世界が広がる感覚を味わえる。</p> <p>③スヌーズレンは心を落ち着ける、触れてみたい気持ちを引き出す。教員が体験・研修を重ね、授業への導入を広げている。</p> <p>・SDG2の拠点校としての取り組みについて</p> <p>→”届けよう服のチカラ”プロジェクトを全学部さまざまな活動の中で取り組んだ。保護者にもGOGO通信で取り組みの様子を発信している。地域の学校との連携はコロナ渦ということで、旭東中のみであったが、来年度以降さらに広げていきたい。病弱部での取り組みはGOGO通信3で紹介している。総合医療センター分教室は学習発表会でSDGsをテーマに、江戸時代のリサイクルについての発表(社会科)や使い捨てスプーン</p>

を作ったランタンづくり、空き缶やペットボトルを使ってのリサイクルオーケストラなどに取り組んだ。「誰一人残さない社会をつくる」の理念が掲げられている中、本校の子供たちが社会を牽引していく側になってくれたらという願いがある。他④(2) 評価オンライン授業の活用について病弱部の取り組みを②(2) アバターロボットの取り組み④(2) 夏季公開講座を利用したの教員研修について、代替行事各学年の取り組みの様子について報告した。

(3) 「学校教育自己診断」について

別紙資料内容説明。集計結果については第 3 回で報告する。

(4) 「授業アンケート」について

別紙第 1 回目についての報告。第 2 回目については次回報告する。

(5) 教科用図書 選定報告

別紙資料にて説明。

(6) 意見交換

下欄に記載

(7) 教頭挨拶

委員からの意見の概要

- ・動画では子どもたちの生き生きとした表情に感動した。支援される側が多い子供たちが、自分でできる機会を持つことで、積極的になれるのだと思う。どんどん発信してほしい。
- ・SDGsという現代ワードを用いて授業を企画されていて素晴らしいと思う。障がいがあるから無理とされていたことが、ツールを使うことで、本来持っているけれど発揮できていなかった力を発揮できる喜びを子どもたちから感じた。
- ・この状況の中で、生き生きと学校生活を送られるよう工夫されていて感銘をうけた。スヌーズレンについては実践を継続されるにあたって、しっかりと持続可能な目標設定を立て、継続的・系統的に進めてほしい。
- ・「自立と社会参加」のために、「自分の貢献度をいかに確認できるか」が大切だと思う。情報発信をして、結果がかえってくる達成感を味わってほしい。
- ・光陽支援学校の子どもたちの素晴らしい活躍を見ながら、先日かかわったこの地域にあるホスピスの子どもたちのことを思い返した。他にも地域の相談を受ける中で、親子関係の難しさや、限られた狭い世界の中でつらい現実がたくさんある。進行性の筋萎縮症の 60 代の方が車いす1つ借りられない状況もある。地域でできることにも尽力したい。
- ・泊行事の代替行事の工夫に感銘を受けた。地域の小学校でも泊行事は、延期に次ぐ延期が重なり、先日 12 月 10 日にやっと実施できた。感染症は、今また新しい型が出てきつつあり、先行きが心配だが、光陽支援学校での取り組みを参考にさせていただき、自校も取り組みをすすめたい。対面交流もできていないが、今後もオンラインを活用してつながっていきたくないと希望している。
- ・PTA 活動では、オンラインでの研修や取り組みが多かったが、逆に今まで以上に参加者が増えた。
- ・病弱部から報告があった「アバターロボットの実証実験」の研究メンバーの一人として補足したい。入院中の子どもたちがアバターロボットを通して、原籍校と途切れることなく、入院中もつながれる。メディアにも取り上げられており、社会発信が広がることで、さらなる取り組みが広がると期待したい。
- ・授業や代替行事の中で、様々な地域の資源を取り入れられており、たくさんの社会的資源の利用方法があるのだとわかった。

次回の会議日程

日時	令和4年2月中旬予定
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室